

メディカルハーブ 安全性ハンドブック 第2版

Botanical Safety Handbook, Second Edition

原書初版から16年を経て刊行された第2版、待望の翻訳。

500種類以上の薬用ハーブの安全性、

相互作用情報に関する決定版。

米国ハーブ製品協会(AHPA)、ゾーイ・ガードナー、マイケル・マクガフィン 編著

小池一男 監修 林真一郎、渡辺肇子 監訳 今知美 翻訳

第2版では薬やサプリメントとの『相互作用』や詳細な研究情報が大幅に加わり、医学、薬学、健康食品、ハーブやアロマテラピーに携わる関係者には必携の資料となります。



こんな方々におすすめします

ハーブ・アロマテラピー関連会社／薬剤師／医師／
製薬会社・食品会社／サプリメント関連会社／
薬学部研究室・大学図書館・公共図書館

ISBN : 9784490209358

ProductID : KP00052981

同時アクセス1(本体価) : ¥48,400

統合医療に欠くことのできないメディカル・ハーブ療法

今西二郎 明治国際医療大学附属統合医療センター長・教授

統合医療とは、現代西洋医学に各種補完・代替医療を組み合わせて行う、一人一人に合わせたオーダーメイド医療である。病気の治療だけでなく、予防、健康維持・増進など幅広く活用されている。統合医療で利用される補完・代替医療のうち、ハーブ療法は、恐らく最も古くより利用され、現在でもなお広く用いられている療法であろう。狭い意味のハーブ療法だけでなく、中国医学、漢方、インド伝統医学であるアーユルヴェーダ、アラブ伝統医学であるユナニなど世界の伝統医学、民族医療においてハーブが広く用いられてきている。それだけに、治療に利用されるハーブの種類は極めて多く、またそれらの効果についても多岐にわたっている。

本書では、それらの膨大な数のハーブの安全性、効果（臨床試験を含む）、副作用、薬物、サプリメント、ハーブなどとの相互作用について、網羅的に記述されている。ハーブ療法を実践するのに、必携のデータブックである。

これからの医療とハーブ療法

渡邊 昌 日本総合医学会会長、国立健康・栄養研究所元理事長

ハーブティや精油はすっかり私たちの日常生活に溶け込んでいる。ストレスの多い生活のなかで、ほっとするひと時を味わえるハーブの効果が実感されるからだろう。ヨーロッパに伝わる自然療法の植物薬にはエジプトから伝わったハーブや、アレキサンダー大王がインドから持ち帰ったとされる薬草もあり、観智の結晶ともいえる。私たちは、治未病（未だ病まざるを治す）の軸に「食・こころ・体」をあげているが、ハーブや漢方薬は、薬膳など食と深い関係にある。また、精油の揮発成分はこころに影響を及ぼし、オイルマッサージなどは直接皮膚から吸収されてさまざまな薬理作用を持つ。何が私たちの健康に効果をもたらし、統合医療にもちいることができるのか、エビデンスを積み上げて判断する必要がある。本書は、初版にくらべると紙面は2倍のサイズで見やすくなり、1,000頁ほどと内容も充実した。ここ10数年のハーブの安全性に関する研究が集約され、それぞれの特徴や機能に加え、相互作用情報や、なによりありがたいのは文献情報が詳細に記載されていることだ。座右においておきたい一冊である。

米国ハーブ製品協会(AHPA)／編著

健康とクオリティオブライフ向上のために、ハーブ製品の流通において責任ある販売の促進を目的とする。

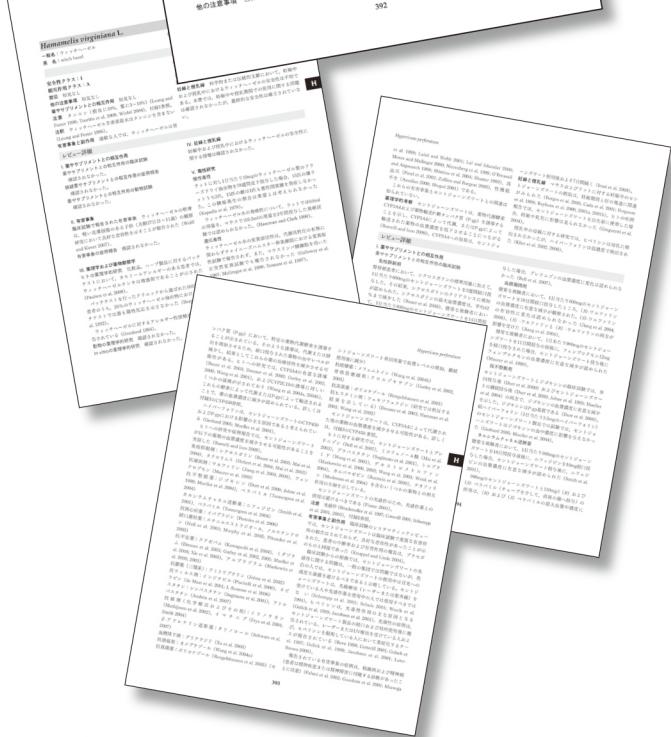
米国の民間団体。ハーブの安全性については、世界的な評価基準として信頼されている。

小池一男／監修

東邦大学薬学部生薬学教室教授、薬学部付属薬用植物園園長併任。薬学博士・薬剤師。専門は生物活性を有する天然有機化合物の構造化学。ハーブガーデンを設置し薬学における植物療法学に教育の立場から取り組んでいる。



KinoDenは、紀伊國屋書店がご提供する学術和書電子図書館サービスです。読みやすいピュア、未購入タイトルも含めた全文検索、試し読み・リクエスト機能など、長年の経験を活かし「本当に使われる電子図書館」をご提供致します。



本書の特長

- ①植物の学名 A～Z の順で約500種を配列。
- ②学名、一般名、英名、和名、生薬名、異名、アーユルヴェーダ名、中国名、別名も掲載。
- ③安全性・相互作用クラス分類、禁忌などの注意事項を紹介。
- ④薬やサプリメントとの相互作用、有害事象と副作用、薬理学的考察、妊婦と授乳婦の安全情報、毒性研究も充実。
- ⑤付録として、植物科学成分、薬理作用など植物の安全性に関する情報を付す。